

秋恒例の国際協力イベント 「北海道国際協力フェスタ2004」開催される

国際協力フェスタは、"世界の今を知り、様々な文化に触れ、国際協力活動に出会おう"という趣旨で毎年秋に開催されているイベントで、今年も10月2日(土)～3日(日)、サッポロファクトリー(札幌市中央区北2東3)のアトリウム、催事場、煙突広場、ファクトリーホールを会場に北海道NGOネットワーク協議会と参加NGOが主催、JICA札幌、(社)北方圏センター、(財)札幌国際プラザが共催して実施した。

両日とも、午前中から午後6時過ぎまで、NGOや国際協力活動を理解してもらうための入門講座「今日から始める国際協力」、各NGOの活動やスタディーツアー報告、民族衣装や音楽のステージ発表など数々のプログラムが組まれ、国際協力に関心のある人々や訪れた家族連れの市民などで賑わった。恒例のチャリティバザーには17のNGOと写真展が出店したほか、国際交流基金(特別行政法人、東京都港区赤坂)の情報センターが初めてブース参加し、従来の海外との事業に加えて、日本国内の地域・市民レベルで高まっている国際文化交流の分野で市民団体との連携を進めていることをアピールした。

今回は、映像、音楽、語りで世界の紛争地域の子どもたちの姿を伝える医師・桑山紀彦さんの「地球のステージ」、写真家・伊勢祥延



入門講座「今日から始める国際協力」の会場

さんのスライド上映「アフガニスタン・レポート」、長倉洋海さんの「世界の子どもたちの写真展」など世界各地の厳しい現状を伝える企画では大勢の参加者が熱心に見入っていた。JICA札幌はODA50周

年特別企画として映像による開発途上国の紹介やJICA専門家の報告などを行った。また、恒例の「世界音楽ライブ」や各国の料理などが楽しめるエスニックカフェが今年も人気で、大いに学び、大いに楽しんだ「国際協力フェスタ」であった。



煙突広場に開店した「エスニック・カフェ」



インドネシア留学生グループの伝統楽器「アンクルン」の演奏

「アラエール号」登場! 「使い捨て」より「再使用」を

国際協力フェスタ人気の「エスニックカフェ」は今年はファクトリー内の煙突広場にテントを張って店を開きました。北海道NGOネットワーク協議会のメンバーである「どさんこ海外保健協力会」「青年海外協力隊後志OB会」「飛んでき!車いすの会」「北海道インドネシアガルーダ会」「タイランドクラブ」「北海道YMCA」がそれぞれ香り高い得意料理や常夏の飲み物などを販売した。

このテントの裏に控えていたのが今年4月から札幌市が貸し出しを始めた移動食器洗浄車の「アラエール号」。1.5トンの小型トラックの荷台に、食器洗浄機、流し台などを積んで、学校祭や地域のお祭りなど飲食を伴うイベント会場で活躍している。

給排水設備のある会場であればどこでも使用可能で、使用電気料金や燃料代を含めて1日3,000円程度ですむ優れもの!。

どんぶりや皿、スプーンなど食器類200組も貸し出しているので、ゴミの減量やリサイクルをめざして各地での利用が期待されている。



大活躍の移動食器洗浄車「アラエール号」

問い合わせ・申し込み先

リサイクルプラザ宮の沢

TEL.(011)671-4153 FAX.(011)671-4156

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条1丁目 ちえりあ1F

午前10時～午後6時(月曜日と年末年始は休み)